

[授業の目的・内容・進め方・履修上の条件等]

国際政治経済諸問題をより深く理解する能力を育てる。その際経済学的な分析方法・視点を重視し、何らかの点で貧困に関わる問題にも触れたい。共通の文献を読んで報告及び討論をする予定だが、下記文献は現時点では候補であり最終的には授業の参加者と相談の上決定する。経済学の基礎的知識があることが望ましいが、そうでない場合、学部開講の国際経済学、及び国際政治経済論、を併せて受講することが勧められる。

[評価方法]

ゼミでの割当の発表、毎回の参加の度合い及び発言内容等で総合的に評価する予定。場合によってはタームペーパーも要求する。

[共通文献購読について]

<テキスト>

矢野誠 (2005)、『「質の時代」のシステム改革：良い市場とは何か?』 岩波書店。

絵所秀紀、穂坂光彦、野上裕生 [編著] (2004)、『貧困と開発』日本評論社。

下川雅嗣 (2005)「経済学から見たグローバリゼーション」学内共同研究『グローバル・スタディーズの構築』報告書。

<内容及びそれぞれの本の目的、やり方>

1) 矢野誠 (2005)、『「質の時代」のシステム改革：良い市場とは何か?』 岩波書店。

経済的側面におけるグローバリゼーションはしばしば、世界共通市場化と言われる。また所謂“新自由主義的グローバリゼーション”と言われている市場至上主義は大きな問題を持つとした反対運動も大きい。いずれにしても『市場』というものが中心的なテーマである。しかしながら、あまり市場の本質的メカニズムが何なのか、そしてその市場の質についての議論は聞かないし、多くの人にはそれを理解していないように思う。ここでは、この本を輪読することによって“新自由主義的グローバリゼーション”の問題点等を考えるためにも、市場の本質的メカニズム、市場の質について理解を深め、高質な市場とは何か、高質な市場を作っていくための条件は何なのか等について考えていきたい。

ただし、この本は国内市場(しかも先進国、特にアメリカの市場の例が多い)において市場の質を論じ、また特にアメリカの市場に比べて日本の国内市場の質が低くそれを高くするためには何が必要かというようなことを中心テーマにしている。よって、読者はこの本に書かれていることを理解し、これをネタにして、途上国市場、さらには国際市場において市場の質がどうなっているのか思いを巡らせて欲しい(例えば、WTOは国際市場の質を高めているのか、低めているのか等)。

→各パートに対して3、4人の担当者（概要の説明、モデル部分の説明、応用例の提示、問題点・途上国市場や国際市場での検討）

2) 絵所秀紀、穂坂光彦、野上裕生 [編著] (2004) 『貧困と開発』日本評論社。

これはテキスト的な部分、その章の著者個人の研究している分野のサーベイ論文的な部分、研究論文等が混成した本である。しかしながら、全体をざっと読むことにより、この分野のだいたいの見取り図が得られるだろう。時間があればそれぞれの各論について、その内容の問題点の指摘を含めて議論をしていきたい。

< 日程、やり方 >

下記日程は目安。進み具合はどんどんずれ込む可能性があります。

1. 4/14 : イントロダクション、自己紹介、内容・進め方の決定。
2. 4/21 : 矢野 序章「21世紀は高質な市場を求めている」
第1章「市場が現代経済を支える」
第2章「利益追求のための競争排除が市場の質を下げる」
3. 4/28 : 矢野 第3章「競争市場が労働市場の質を下げた」
第4章「高質な競争と情報が資本市場を支える」
4. 5/12 : 矢野 第5章「適切なルールが高質な市場を支える」
終章「高質な市場が育つシステムを創ろう」
5. 5/19 : 下川雅嗣「経済学から見たグローバリゼーション」
論文を各自読んだ上でのディスカッションか場合によっては下川の講義。
6. 5/26 : 貧困・ 序章「貧困と開発：主要論点の整理」
7. 6/2 : 貧困・ 第1章「経済成長と貧困・雇用」
第2章「開発援助と貧困削減の経済学」
8. 6/9 : 貧困・ 第3章「農村の貧困と開発の課題」
第4章「都市貧困と居住」
9. 6/16 : 貧困・ 第5章「貧困と教育」
+ 糟谷有紀子『教育は貧困者の可能性を拡大できるか』2004年度卒論？
第6章「ジェンダーと貧困」
- 10.6/23 : 貧困・ 第7章「マイクロ・ファイナンスの金融メカニズム」
第8章「ソーシャル・キャピタル」
- 11.6/30 : 貧困・ 第9章「アフリカの貧困」
第10章「『貧困と開発』からみた日本の経験」
12. 7/7 : 予備
13. 7/14: 予備